

令和5年度 第2回岡山県立図書館協議会

日 時：令和6年2月15日（木）14：00～16：00

場 所：岡山県立図書館 サークル活動室

出席者 ○委員：秋山委員、工藤委員、小野委員、坂井委員、住吉委員、平井委員、山口委員、湯澤委員

○県立図書館：大西館長、山崎副館長（総務・メディア課長）、笠原総括参事（サービス第一課長）、松本総括参事（図書館振興課長）、神田資料情報課長、鳥越サービス第二課長、服部総括主幹（企画・メディア班長）

欠席者 ○小林委員、山本委員

1 開会

2 開会挨拶 県立図書館 大西館長 挨拶

3 資料確認

4 協議・報告

(1) 令和5年度事業概要 資料1

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

里庄町立図書館では講師派遣事業をお願いし、レファレンスについて県立図書館の方にきていただき講師をお願いした。勤務時間の違う職員が多い関係でなかなか研修に行くことができずレファレンスの技能がわからないことが悩みとしてあったので、非常に勉強になった。来年もぜひ講師の派遣をお願いしたいと思っている。

上映権付のDVD資料は高価なので、当館では、館外貸し出し用のDVDを年間数枚買うだけで精一杯だが、県立図書館では上映権付のDVDがあり、一般の方がこうした上映会を行い、無料で見ることができるのはいい取り組みである。

【事務局】

今年度は年6回行ったが、次年度は回数を減らして実施することを考えている。当館では高価ではあるが、できるだけ上映権付のDVDを購入するようにしているが、予算の状況により少しずつ購入が難しくなっている。回数を減らすことについては、利用者の声があれば改めて見直しすることも考えている。

【事務局】

現在の体制で、職員はギリギリの状況である。そうした中で、コミュニケーション不足によるサービスの低下を危惧しているところであり、なにより職員の負担感がかなり大きいと感じている。そうしたことから一度立ち止まって見直しを行い、より質の高いサービスを提供できる余力を産む必要があると考えたところである。

【委員】

エントランスの写真展やティーンズコーナーの高校生の展示なども一つ来館のきっかけとなると感じた。美術館との連携展示などでお互いに施設を行き来できるようなことができれば双方に盛り上がると思う。

【委員】

来年度に事業を少しペースダウンするとのことだが、それも大事なことであると思う。いいことはどんどんしようとなりがちだが、ちょっとした心の余裕・ゆとりから新しい取り組みが生まれてくることもあるので、一見するとブレーキをかけるようでも未来を見据えての真摯な姿勢をご説明いただけたと思う。

コロナがあけて、図書館の意義というものが、一方向の知識の供与だけではなく、人が集い、互いにつながりあい、さまざまなものを作り出していくといった場づくりへの転換が必要だと思う。

また、展示をやりっぱなしではなくレファレンスに活かせるよう、多くのブックリストを作成し、蓄積がなされているという地道な取り組みを評価したい。

【委員】

美術館との連携で、図書館のポスターなどを見たことがないので、連携先にも図書館への来館を促すような協力を要望してはどうか。

また、中高生向けの自習室については、どのような経緯で始めたのか。

【事務局】

自習をしたいとの要望は以前からあり、また、当館でも中高生にもっと利用してほしいとの思いもあり、これまで検討を行ってきた。閲覧室での自習スペースの確保は難しいことから、このサークル活動室が空いている時間帯を自習スペースとして開放し、足を運んでもらおうと考えたところである。

(2) 令和6年度当初予算案の概要

資料2

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

資料整備費の産廃税と森づくり県民税については、その関連の資料を買うということか。それは来年度のみか。このような予算は他県でもあるのか。

【事務局】

環境などに関する資料を購入する際には、この財源を使うことができるようになった。毎年予算要求を行う必要があるが、おそらく今後も同様の予算を確保できると考えている。

また、予算要求の際に、滋賀県の取り組みを参考にした。

【委員】

子ども読書推進計画や読書バリアフリー計画に関する特別な予算はあるのか。

【事務局】

経常的には一般経費の中だが、令和4年度には読書バリアフリー計画が策定されたことをうけて、拡大読書器や対面朗読室のパソコンなどを購入し、環境整備を行った。

【委員】

開館20周年の事業についてなにか考えているか。

【事務局】

記念誌の作成、有名な方の講演会や例年行っている岡山フィルハーモニック管弦楽団によるコンサートの演奏者を増やすなどを考えている。

【委員】

ふるさと納税はどのくらいの収入があるのか。

【事務局】

例年100万円程度である。

(3) 岡山県内市町村立図書館の動向について 資料3

資料に基づき、事務局説明

【委員】

施設の老朽化等で図書館の建て替えを行う際に、市町村において図書館の数を減らすとか、面積を減らすといった動きがあるか。他県では公共施設の総量を抑制するため、分館の縮小などを打ち出し、住民の反発が問題になることもあるが、岡山県内の状況はどうか。

【事務局】

例えば、倉敷市立中央図書館は、施設の複合化に伴い、蔵書が現在より少なくなる基本計画案となっており、市民が意見を出しているといった状況がある。

【委員】

図書館の利用率が下がっている要因として、こうした図書館の面積や蔵書の減少ということもあるのではないかと考えている。

岡山県立図書館でもある時期と比べて資料費が減少している中で、当初の蔵書構成を維持できなくなっているというのがある意味、利用者が減少している要因にあるのではないか。コロナだけが原因ではないと思う。

【委員】

建物東側の水盤及び噴水の有効活用策はあるのか。管理が大変なのではないか。

【事務局】

水盤の部分は建物の空調設備における冷却塔（クーリングタワー）の機能を有しており、水を抜くことは難しい。

【事務局】

もう一点、岡山城の史跡の範囲であり、城のお堀をイメージしているなど歴史的な意義づけなどから、図書館の一存で変更を加えることは難しい。

(4) 岡山県職員及びWeb アンケートの結果（概要）について 資料4

資料に基づき、事務局説明

【委員】

ホームページからアンケートに答えるのは図書館に興味がある人しかそもそもホームページを見ないので、県職員と一般の方と合わせて集計すると正しい結果が見えなくなるのではないか。

【委員】

これまでは、職員アンケートのみであったかと思うが、一般アンケートをとり始めたのはなぜか。

【事務局】

職員の意見だけでなく、対象を広げて、一般の方からも意見を集めたかったというところである。図書館に興味のない方に答えてもらえるよう、アンケートの周知がもう少しできればよかったのではと考えている。

【委員】

今後、これまでのアンケート結果の傾向や推移、一般の意見と職員の意見の違いなどの分析を行ってほしいので、アンケート結果は別々に示してもらえると良い。

【事務局】

図書館を利用されていない方にどのようにアプローチしていくかを考えるうえで、費用をかけずに、簡便に県民の意見を把握する方法がないものかと苦心しているところである。

【委員】

来年度から情報メディア学部ができることから、協力できることがあれば協力したい。

(5) これからの県立図書館運営の方向性について 資料5

【委員】

五つの基本的性格については、岡山県立図書館の基本となるものなので、それは変える必要はないと思う。その中身をどのように考えていくかということになる。25年前と現在とでは、変わっている部分もある。市町村の図書館と同じことをするのは、あまり意味がない。県立としての存在意義というものを、県民だけでなく、県庁の職員や知事に対してアピールしていくようなことを考えていったほうが良い。市町村立図書館とは役割が全く違うということを打ち出せないといけないと思う。それから、レファレンスや情報提供における調査能力、調査機能というものを県立として高めていくと同時に、市町村への手厚い支援をどのように行っていくのかといったところを構想の中に盛り込んでいただきたい。

【委員】

県立図書館のスタッフが他の図書館と違うというマインドやアイデンティティについてお聞きしたい。

【事務局】

総合文化センターの時代から県立図書館ができるまで、10年以上を要した経緯があり、これだけの規模の施設や体制を組んでもらい、開館後してみると予想よりも遙かに多い来館者にきていただき、結果として都道府県立図書館の中で来館者数が日本一となった。そうしたことをメディアでも取り上げていただく中で、サービス日本一を目指してサービス向上に努めるということに、職員一人一人がプライドを持って業務に取り組んでいると感じている。また、派手さはないが、基本に忠実に業務を行うというところを徹底してやっていると感じる。

【委員】

バックヤードの職員と連携をしながら、利用者の方が望む資料をいかに素早く提示するかなど、利用者サービスに力を入れていると感じている。

子供が減少している中で、親が安心して子育てができる地域の中の資源として、図書館の役割が非常に大きいと考える。細やかなところは市町村立図書館で行い、県立はバックヤードから支えるというのものもあるかもしれないが、子育て世代の方が安心して子供を育てることができるようなメッセージの打ち出しをお願いしたい。

学生向けに自習スペースを開放する試みも、優しいなと思う。この場所であれば子供がある程度騒がしくしてもよいといったエリアの設定や職員の優しい見守りなど、市町村の図書館の見本になるような実践をお願いしたい。特定の日は、子供たちが騒がしくしてもOKなど。親も図書館が子育てをあたたく支援してくれていると感じられるようなところがあってほしいと思う。職員の顔が見える（あの職員さんに会いに行くといった）サービスをお願いしたい。

【委員】

図書館を利用しない人がいるのは仕方がない。遠方の方は地元の図書館を利用すればよいので、近隣の方に来館してもらうとの考え方でよいと思う。

私にとって県立図書館は県民としての誇りであると思うし、いざ困ったときには県立図書館がある、県立図書館に行こうと思ってもらうことが大切である。そのために、新たなことに取り組むということではなく、市町村の図書館で県立図書館の本が借りられる、返却できるなど、現在のサービスがとても便利なので、今あるサービスのさらなる周知に努めることが必要である。図書館のサービスを連携先にもっとアピールしてもらうような働きかけをしてほしい。

学校ではGIGAスクール構想で、タブレットを使うよう指導がなされているが、読書の力を育てるために、図書館は必ず必要となるものである。